

学校目標				重点目標											
1 学校におけるあらゆる教育活動を通して、社会的資質の向上、キャリア能力の育成、個性の伸張を図り、真に豊かな教養と実践力を持つ社会人の育成を目指す。 2 学力を保証し、人間的成長を保証し、進路を保証する高校を目指す。				1 専門分野を学ぶ意欲の醸成と基礎学力の定着 2 豊かな心から生まれるビジネスマナーの育成 3 地域社会を愛し活躍できる人づくり進路保証											
				今年度の重点目標											
				① いじめ・暴力のない「安心・安全」な学校をつくります。 ② 身だしなみを整え、あいさつと清掃を進んで行う生徒を育てます。 ③ 授業を大切にし、生徒の基礎力と専門性を伸ばします。 ④ 地域と連携し、地域に貢献することができる人材づくりを進めます。 ⑤ 生徒に、見通しを持たせ、わかるように伝え、共感的に関わるように努めます。											
総合評価	[成果と課題] ・生活指導係を中心に、毎朝の遅刻指導・服装指導により、多くの生徒が社会性を身に付けつつある。改善の遅い一部の生徒へ特別な支援を要する生徒に関する情報を職員間で共有することにより、生活面・学習面の支援が行い易くなった。支援を要する生徒が増加傾向にあるため、更なる支援体制の構築が必要である。 ・すべての生徒が、自ら学び行動できるように、更なる指導体制の充実と研究の努力が必要不可欠である。現在も継続して取組中 ・SPH事業が終了したが、引き続き地域との連携を深めて充実した取り組みになりつつある。教員が主導するのではなく生徒自ら主体性をもって取り組めるよう指導内容の研究が必要である。			[改善策・向上策] ※左記に対する記述が、次年度の目標・課題となる。 ・生活指導の対象となる生徒が固定化されており、担任・学年と連携し、遅刻や服装の指導、学習活動への取り組み等の改善指導を粘り強く行っていくことが重要である。また、家庭とも連携し、協力して指導に当たることが必要である。 ・特別な支援を要する生徒が学校生活を円滑に行えるため、職員間の情報共有や支援・指導方法を充実させることが必要である。 ・SPH事業で培った地域連携のしくみを活かし、生徒が主体的で探求的な学びが行えるように、今後とも指導内容の研究を行っていく必要がある。また、商業科・服飾科の連携をさらに深め、普通科も含めてチーム諏訪実として校内体制の充実が必要不可欠である。											
	領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題				達成度				改善策・向上策		
教育活動	I 生徒指導 生活指導係 1学年 2学年 3学年	1 社会的資質・規範意識の向上		・安心・安全な生活環境の整備 特に、いじめ・暴力の未然防止と、慎重・毅然な対応	・当人同士はふざけ合いの認識であっても、度が過ぎる点や周囲への影響を考慮して指導してきた。						○	・これまで同様に生徒の状況把握に努め、対話を重ね、問題の未然防止・丁寧な初期対応に努める。			
				・交通法規を遵守し、交通安全意識の向上 ・交通安全モデル校として他の模範となるべく交通マナーの実現	・スタントも取り入れた交通安全教室を開催し、交通安全の意識向上を図った。 春・秋の街頭指導で多くの職員の協力のもと活動をした。						○	・本校生徒のマナーは向上している様子であるが、モデル校というレベルには程遠い。特に自転車の乗り方に対する指導は今後も必要不可欠。			
				・法律・校則を遵守する意識の向上 ・規律と秩序ある生活態度の育成	・規範意識は向上してきているが、校則を守ることのできない生徒はまだ多い。 ・スマホ不適切使用による指導多数。						○	・社会人マインス1・2・3年生であるという意識を持たせたい。 ・授業中の校内見回りを2人体制に戻し、生徒指導を手厚くするか？			
				・マナー向上の促進 ・節度ある学校生活と地域からの信頼の構築	・ツルヤ(4月)、自転車走行(4・6月)、JRR工事現場(9月)から苦情あり。 ・地域からは挨拶・誠実な言動についてのお褒めの言葉も届く。 ・身だしなみに疑問ありの声が届くことが残念。						○	・法律に触れなければ何をしてもよいという感覚を変えていきたい。 ・地域の方から愛されるような人格を育むように努める。 ・アンケートを生徒・保護者・教員を対象に実施した。身だしなみ向上を目指す。			
				・挨拶・身だしなみ・時間を守る指導の重点化 ・全職員による同一歩調の指導	・服装の乱れ多数あり。スカート丈は、地域からの非難・犯罪・健康の面からも大きな課題である。 ・気候の変化に対応し、夏服期間を5月～10月に変更した。また、来年度より制服夏服にボロシャツを導入した。						○	・服装については大胆・大幅な見直しも必要か？ ・同一歩調での指導ができるよう工夫をしていく。 ・抜き打ち身だしなみ検査実施？ ・スカート丈の検査は月1回は実施？			
				・所有物の自己管理意識の向上	・貴重品のロッカー自己管理ができていない。注意喚起のなか、10月には現金抜き取りが3件発生した。							○	・施設することができない。ロッカー施設状況の確認をするか？		
		2 健全育成		・人権を守る土壌の育成 ・他者への配慮ができる生徒の育成	・注意喚起・反省の機会には社会的側面・周囲への配慮を問いかけている。SNS不適切使用件数は減少気味だが多数。							○	・他者への配慮ができる人になるよう呼び掛けていく。スマホ・SNSの利用についてクラス掲示などで定期的に注意をしている。		
				・生徒との対話の尊重 ・問題行動の未然防止・早期解決	・問題行動につながる可能性があることには、問題の小さいうちに、早めに、対応するように努めた。							○	・今後も声に耳を傾け、アンケートなどから状況把握に努め対応していく。		
				・生徒・保護者の心情・背景を踏まえた適切な問題行動への対処	・生徒・保護者の想いを受けとめながら対処するように努めている。							○	・今後もクラス担任や学年と連携をとりながら対応していく。		
				・指導の定着を図る事後指導	・必要に応じて事後指導をしてきた。							○	・労力がかかるが、必要に応じ事後指導もしていく。		
				・生徒会活動との連携による、指導効果の向上 ・自治意識の向上への援助	・身だしなみ・挨拶・交通安全・駐輪場指導について連携活動を行うことができた。							○	・係間・生徒との連携により、指導効果を上げる。今後も自治活動の支援をしていく。		
				・アルバイトへの対処の推進 ・高校生としての自覚と規則正しい生活の構築	・許可を得てアルバイトをする生徒は増えてきた。心得講座でデメリットも伝えた。 ・家庭学習をしなくても済んでしまう現実がある。							○	・アルバイトのデメリットや注意ポイントを確実に伝えていきたい。 ・スマホの利用時間は1日平均4時間ほどであり、大きな問題である。		
・教育相談係	3 相談と支援		・校内チーム支援の推進・協力	・担任・学年・生徒指導と適宜協議しながら個々の生徒への支援を実行できた。全職員のご理解とご協力を得て、様々な事案に対応できた。							○	・今年度は係を増員していただけたので、この体制での連携強化を図っていく。			
			・いじめや不登校への予防と対応 ・特別支援教育の充実	・いじめ防止に関する教員の研修や生徒へ向けての全校講演会を行い、教員・生徒双方の意識の高揚を図った。 ・特別な支援を要する生徒の情報を、職員会その他機会あるごとに全職員で共有できるよう努めた。							○	・講演会の内容を、講演会終了後継続的に何らかの形(通信など)で繰り返し伝えていくなど、研修や講演を活かす手立てを講じる必要がある。 ・サーバー上への生徒情報など、全職員間の情報共有をしやすくする手立てを講じていく。			
			・校外関係機関との連携	・必要に応じて役所・SSW・SCなどの諸機関と連携し、個々の事案に対応してきた。							○	・SCの規定時間配分が圧倒的に不足している(学校の課題ではない部分もあるが)。様々な心の悩みを抱えた生徒が今後増加することは必定である。15時間加配をいただいたが、不足であることに変わりはない。			
・平和人権係	4 人権意識と仲間づくり		・人権意識に基づく学級経営 ・人権感覚の定着と向上	・いじめ防止に関する全校講演会を教育相談係と共催で行い、人権感覚の定着と向上を図った。また、道徳全体計画を新たに作成し、道徳教育の推進を図った。							○	・講演会が単発で終わってしまうのではなく、講演会の内容が高校生活の中で活かされるよう、事前・事後指導の方法を考える必要がある。			

令和元年度 学校評価表(全日制)

2/3

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
教育活動	・保健係	5 健康・安全教育	・健康・安全教育の充実 ・生徒及び職員の健康支援 ・環境衛生の促進	・各行事を通じて全体または個別に支援を行っている。 ・保健委員の当番活動として保健だよりを発行し、生徒・職員健康維持に役立っている。トイレ・水場の見回りを行っている。	○				・様々な行事や季節の変化に考慮し健康管理について支援を続けてい ・生徒の保健意識を調査し、生徒の事情に合わせた支援ができるようにしていく。
	・整美係	6 校舎内外の美化の推進	・進んで清掃に取り組み意識の構築 ・校内清掃徹底のための職員の監督・指導 ・ゴミ分別の徹底 ・整美委員会の自発的取り組みの支援	・委員会の当番活動や、学年単位の校舎内外の清掃を行った(LHR)。 ・各クラスの委員が自覚を持ち、行事前には点検と確認清掃を行うことができた。 ・ごみの分別の徹底をはかりたい。		○			・清掃の後にSHRを行うことにより全校で清掃に取り組むことができた。 ごみの分別については、分別用のごみ箱を増やしていきたい。
	・校友会係	7 自主活動の促進 校友会活動の充実	・リーダーの育成と自主的で組織的な活動 ・委員会活動の活性化 ・校友会行事・文化祭の質的向上	・役員会を重ね、生徒をリーダーとして各行事、委員会活動に取り組ませた。文化祭などの行事では、イベントの運営とともに、ルールを守るよう呼びかけも責任を持って行うよう指導した。		○			・生徒自身で計画実施していく段取りをとることは時間も手間もかかるが、顧問主導ではなく、生徒主体で活動できるよう、今後も指導したい。
		8 クラブ活動の充実	・加入促進と各部の活発な活動 ・各種大会、コンクール参加に対する支援	・科ノ葉祭における一般公開で、今年は文化部の発表の場を設けることを重点項目の1つとして取り組めた			○		・活動監査を行い、部の活動状況を把握した上で、クラブ活動を応援していきたい。
	Ⅱ 進路指導 ・進路指導係 1学年 2学年 3学年	1 進路意識の高揚および早期確立 (1)自己理解を深める (2)職業観を確立する (3)自己の将来を展望する (4)進路を吟味する (5)社会参加を促す	・進路講演会、校内外ガイダンス・説明会、個人面談を通じ、学年に応じた進路意識の確立 1年生 進路意識の高揚および情報収集 キャリアデザインに向けた自己理解 ミニメッセ、インターンシップによる地域産業理解 2年生 進路の方向性の決定 インターンシップの活用 ミニメッセの活用 オープンキャンパスの活用 諏訪園工業メッセへの参加	・1学年では9月にミニメッセを行い地元の企業への理解を深め、12月初旬のインターンシップに結び付けた。ただ働くことを意識するだけでなく、人生の中での勤労観を考える機会となった。 ・夏期休業中に進学希望の1・2年生7名による大学体験を1日間実施した。加えて学校説明会への参加をすすめ、進路意識の高揚を促している。 ・2学年において10月中旬には諏訪園工業メッセの見学・1月中旬TSUNAGU企業勉強会に参加し、将来を見据えた地域企業の理解に努めている。		○			・ミニメッセ、インターンシップ、工業メッセ、TSUNAGU企業勉強会という流れが定着してきた。各企業で製作しているモノについては理解できたが、各現場に訪問し、会社の雰囲気や従業員の姿を拝見する必要がある。 ・進学についても、上級学校での学び方を早期に理解させるための2年生からのオープンキャンパスへの参加や体験学習の機会を設ける必要を感じている。 ・学校と企業の考え方のミスマッチを抑制するための職員の学びの必要性も感じている。
		2 進路保証	・個人の興味、能力、希望に応じた進路選択と実現 3年生 本人および保護者の納得した進路選択(進路希望とその実現)	・一人一人の希望に沿った進路先を確認するため、進路担当が全員の生徒と面談を行った。本人・保護者の納得する進路選択をすすめ、実現に向けた支援を行っている。		○			・3者懇談だけでなく、どれだけ本人・保護者・担任・進路で話をする機会を持てるかが重要と考えている。
	Ⅲ 学習指導 ・教育課程委員会 ・学習係 1学年 2学年 3学年	1 21世紀型学力の養成 教育課程の検証 新教育課程に向けた授業の取組	・科目指導法の研究と実践 ・学習理解度の把握と定着への継続的指導	・SPH後も地域と連携した授業を実施している。 ・新教育課程に向けて、検討を進めており、主体的な学びや、地域に開かれた学校を目指して取り組んでいる。		○			・継続的な取組になるように工夫していく。 ・新教育課程に向けた検討をさらに進めていく。
		2 意欲・関心の喚起と観点別評価	・シラバスの検証と授業改善 ・観点別評価の実践研究 ・授業態度、授業に臨む姿勢の指導	・授業充実のためのアンケートを7月末、年度末に実施し、授業の充実に向けた意見を全ての生徒から集めた。		○			・授業アンケートを受けて改善点を研究し、授業のさらなる充実を図っていく。
		3 基礎学力の定着	・BabyStep(ドリル)の活用 ・(集中力を高める)読書週間の充実 ・家庭学習の習慣づけ	・一般常識(国・数・英のBabyStepドリル)を実施。一般常識の出題には読み取る力を加えている。 ・読書週間で、落ち着いた取組が見られた。		○			・BabyStepに向けた生徒の意識向上を図るようにしていく。
		4 SPH後の地域との連携	・地域文化・伝統に関する講演会 ・文化ビジネス研究における実践 ・地域課題についての発表会	・1年生は地域の方による講演会、2年生は文化ビジネス研究に、京都研修も行った。3年生課題研究では、地域と連携した調査タウンを目指した。		○			・やって終わりではなく、生徒の力の定着になるように工夫をしていく。
	Ⅳ 専門科 商業科 会計情報科 服飾科	1 専門教育の改善・充実	・専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 ・進路希望に即した学習構成と学習支援	＜商業・会計情報科＞ ・生徒が主体的に学ぶことができるように授業改善を行っている。 ・生徒の興味・関心、進路希望に合わせて選択講座を開講している。(商業科) ・簿記と情報の高度な資格が取得できるように指導している。(会計情報科) ＜服飾科＞ ・3年間の学習を見通し、基礎から応用、発展へと専門科野学科の知識と技能を積み重ねることができた。 ・社会人講師、学科研修や行事、校外コンクールへの挑戦などの取り組みを通して自ら主体的に学ぶ姿勢と、学習への意欲を高めることができた。	○				＜商業・会計情報科＞ ・科目担当者が相談し合いながら授業を行うことによって、生徒の意欲を引き出すようにしている。 ・ICTを活用して、分かりやすい授業を心掛けた。
		2 資格取得の促進	・進路実現に向けた受験指導	＜服飾科＞ ・3年間の学習を見通し、基礎から応用、発展へと専門科野学科の知識と技能を積み重ねることができた。 ・社会人講師、学科研修や行事、校外コンクールへの挑戦などの取り組みを通して自ら主体的に学ぶ姿勢と、学習への意欲を高めることができた。	○				＜服飾科＞ ・基礎・基本の学びから高度な発展学習までをつなぐ応用的な学習活動の充実をはかるとともに、自ら進んで考えて学びを深めるため、学習に対する意欲を高める効果的な活動や手法を探していきたい。
		3 地域との連携	・各種取り組みの継続と発展 ・諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業	＜商業・会計情報科＞ ・10月12・13日が台風のため中止となり、14日に午前中のみ諏実タウンを実施した。地域と連携した活動になってきており、地域に定着してきた。 ・商品開発、文化ビジネス研究で地域と協力した活動が出来ている。		○			＜商業・会計情報科＞ ・モノではなく、コトを売ることを心がけるようにする。月曜日半日だけの実施にも関わらず多くの来場者があった。感謝の気持ちを忘れず取り組むように指導していきたい。 ・継続的な活動になるように進めていく。ただ単にやって終わりではなく、どのような力を生徒に付けさせたいのか、意識して活動することを心掛ける。
				＜服飾科＞ ・小学校・中学校との学習交流など定着しつつある活動が毎年定着しつつあり、本校生徒にとってもよい学習の機会となっている。 ・文化ビジネス研究や専門科の授業の中でよい学習効果を上げていると考えられる。		○			＜服飾科＞ ・活動の参加体制と活動の方向性をあらためて検討していきたい。

令和元年度 学校評価表(全日制)

3/3

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
学校運営	Ⅰ 教務係	1 学校活動全般の企画・運営	・ 日常業務運営のための関係部署間の連絡調整及び情報収集	・ 行事等の際には関係部署と連絡を取り、日程等の調整を行っている。		○			・ 今後も行事等について関係部署と連絡を取り合い、次年度に向けて改善点を明らかにしていきたい。
			・ 業務の整理・改善と新規企画	・ 1,2学期の反省アンケートを集約し、意見を関係部署で検討を依頼した。 ・ 全校生徒・職員が利用できるシステム手帳の作製に着手した。 ・ 資源の節約のため、職員のペーパーレス化を行った。 ・ 反省職員会は1月22日より実施し、次年度の活動に活かしていく。	○			・ 関係部署の検討内容をまとめ、反省職員会で検討していきたい。 ・ 4月初めに配布できるよう、関係部署と連携し作業を進めていく。 ・ 職員会の時間短縮も図るために、前日までに資料を提出してもらう等の運用面の改善を検討していきたい。	
			・ 緊急時等の適切な情報把握と対応 (緊急メールの活用)	・ 9月9日、10月12日～13日の台風接近時にはJRの運行状況等を収集した。 ・ 緊急メールの加入率は低いが、授業参観等の連絡にも活用している。	○			・ 緊急メールの活用方法を検討していきたい。(担任からクラス生徒への連絡など)	
			・ 電子化による情報の共有(月暦・施設予約)	・ 施設予約や伝言板をイントラ上で運用を行い、情報を共有できている。		○		・ 情報係と連携し、さらに使いやすいものを検討していく。	
		2 職員研修の充実	・ 研修内容の精選 ・ 研修会の設置と支援	・ 3つの方針検討のための研修会を2回、コンプライアンス研修会を1回実施した。	○			・ 次年度以降も、コンプライアンスや将来像に関わる研修会を行いたい。	
		3 広報活動の充実 (開かれた学校づくり)	・ 学校案内・学校要覧の発行	・ 今年度は10連休があったが、例年通り5月中旬に発行することができた。また、全中学生に配布するため学校案内の部数を増やした。	○			・ 学校案内は次年度以降も、同時期に作成し、地区内の全中学生に配布できるようにしたい。また、学校要覧も同時期の完成を心がけたい。	
			・ HPの充実(更新)	・ 情報係と連携し、随時HPの更新を行った。	○			・ 生徒や保護者、地域の方に向けて更新の頻度を増やしていきたい。	
			・ 保護者等への情報発信	・ 保護者懇談会に合わせて「読実通信」を発行した。また、参観日等の連絡を緊急メールを利用して周知を行った。	○			・ 緊急メールとHPIにより、保護者への情報発信の機会を増やしていきたい。 ・ 学校からの通知をHPよりダウンロードできるようにしていきたい。	
		・ 学校開放事業の周知と充実 (中学生体験入学) (授業公開)	・ PTA総会に合わせて午後に授業参観を行った。保護者、地域、中学校へ周知したため昨年度より参観者が多くなった。 ・ 夏休み中に体験入学、中学生および中学生保護者向けの公開授業・学校説明会を行い、保護者からは好評を得た。	○			・ 依然として本校保護者の参観数は少ないが、PTA係と連携して継続していきたい。 ・ 次年度も夏休みに体験入学、1学期と2学期に中学生・保護者向けの公開授業・学校説明会を実施したい。		
	Ⅱ 学校評議員会	1 本校の課題の共有と認識	・ 課題の整理と各分掌への報告	・ 6月・10月の評議員会では様々な視点からご意見をいただき、関係部署で今年度の事業に反映させている。		○		・ 各部署で年度末評価をまとめ、評議員の方のご意見をお聞きし、次年度の事業に反映させていきたい。	
	Ⅲ 地域連携 ※商業・服飾以外	1 近隣へのボランティア	・ 環境美化の推進:整美委員を中心に学年(学級)単位で通学路のゴミ拾い・除草を行う。	・ 地域の美化(ゴミ拾いや清掃)の奉仕活動を、現在行っている他に時間を取るよう努力したい。(整美係)		○		・ 委員やボランティアを募り通学路の清掃・除草を行っていく。(整美係)	
				・ 学年単位で校内の環境整備は行えたものの、通学路等の校外での活動は出来なかった。(校友会係)			○	・ 校外の活動については、新年度以降実施の検討をさせたい。(校友会係)	
			・ 交通安全の呼びかけ・電車の乗車マナーの呼びかけ	・ 警察・地域団体・JR等と協力して交通安全・乗車マナーの向上に努める。(生活指導係)		○		・ 関係機関と連携し、今後も継続していく。(生活指導係)	
				・ 自転車の交通安全に関しては、警察と連携して呼びかけることが出来た。乗車マナーについては未実施。(校友会係)			○	・ 電車のマナーについては、生活指導係と連携して、苦情など生徒の実態を把握した上で、必要に応じて取り組みたい。(校友会係)	
			・ 地域からの生徒派遣依頼等に対する協力	・ 未成年の飲酒防止キャンペーン、諏訪湖一周ウオークボランティア等、可能な限り協力できた。しかし、実施時間等で生徒や顧問の負担になるケースもあった。	○			・ 来年度も、内容や実施方法などを検討し、その意義を生徒が理解し意欲を持てる依頼については積極的に協力したい。	
		2 高校大学等との連携	・ 関係大学との研究協議・実践 ・ 授業体験によるインターンシップ	・ 夏休みに体験授業(1日)に7名の1・2年生が参加し、上級学校での学びの楽しさを体験した。		○		・ 春休みには2～3日間の大学講義体験を計画している。	
		3 企業との連携	・ インターンシップ等の推進 ・ 採用担当者の講演会 ・ 内定生徒と採用担当者との面談	・ 職業観を身につけるためのインターンシップは、1学年で全員が参加する形で定着した。内定生徒と採用担当者との懇談は12月に実施した。		○		・ 人材育成に対する学校と企業とのミスマッチを抑制するため職員の企業理解が重要であり、懇談会等を検討したい。	
		4 中学校との連携	・ 他地区を含む中学校訪問等	・ 11月に地区内の中学校を訪問し、入学者選抜に関する細かい変更点を伝えたり、意見を聞く機会とした。	○			・ 専門科の授業内容を理解した上で受検してもらえるよう、体験入学や公開授業へ参加していない生徒については授業見学を勧めてもらう。また、生徒の情報を可能な限り交換し、今後の対応に活かしていく。	